

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 食品生命科学科

職階 講師

氏名 鬼頭久美子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

私は食品生命科学科に所属し、基礎医学、健康科学分野、課題解決型学習の科目を担当している。次年度より研究室生への教育研究指導・支援を行う予定である。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
予防医学	食品生命科学科	選択	3	38
臨床栄養学	食品生命科学科	選択	3	39
食品開発PBL実習	食品生命科学科	自由	2	44
公衆衛生学実習	食品生命科学科	必修	3	40
公衆栄養学実習	食品生命科学科	選択	3	5

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

私は、大学で学んだ知識・考え方をもとに、社会でWell-beingやヒトの健康の維持・増進に貢献できる人材を輩出したいと考えている。食品生命科学科で学ぶ、食や栄養に関連する分野は、社会や個人の生活に密接に結びついており、実社会で生かすことができる分野である。幅広い分野であるため、知識を社会で活用するためには、基礎知識の習得とともに、食品・栄養、人々や社会について、様々な観点から考え、判断し実践していく力が必要である。関連する分野の基礎知識・技術の教授とともに、広い視点からの見方や考え方、知識がどのように応用できるのかという点を最も伝えたいと考えている。これらにより、大学で学んだ知識・技術・考え方を様々な環境で生かせる人材を輩出したいと考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

講義では、『基礎知識の習得』と、『実践や活用のイメージができること』を重視している。豊富な基礎知識が関連分野の実践と応用につながるため、まずは考え方や原理の理解といった、基礎知識の習得を目指している。また、知識が活用されている身近な事例や最新の状況を紹介して、知識と活用が結びつく授業内容を意識している。学生が社会や自分の生活を意識した、知識の活かし方を考える機会を作っていきたいと考えている。

実習科目では、『実際に手を動かして体験すること』と、『自分の考えを集約し、わかりやすく発信すること』を重視している。学んだ内容について、手を動かし体験することは、スキルの習得とともに、知識やスキルを応用・活用する際の初めの一歩となる。また、個人の課題や発表は、自分の作業や考えをまとめて、伝えるトレーニングとなると考えている。課題や発表では、良い点と改善点をフィードバックして、学生が今後に生かせるようにしている。スライドを作成する際は、作り方のコツやプレゼンテーションをする際の話し方を丁寧に助言して、内容をわかりやすく伝える技術や発信力を養う機会としている。

グループワークでは、『他者との協働』に重点を置いている。成果物を完成させる過程において、教員やグループとコミュニケーションをとりながら、計画のマネジメントや役割の調整を行うスキルを身に着けることを目指している。グループワークの様子から、タイミングを見てアドバイスを行うことで、学生に気づきを与え、他者との協働のトレーニングの機会となるよう心掛けている。他者との協働の機会を通じて、社会人としての素地を養うことができると考えている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義では、個人でのプレゼンテーションの機会を設けている。

実習ではグループでのディスカッションとプレゼンテーションの機会を設けている。

(2) ICTの教育活用

有

・Azamoodleを活用して、授業資料・参考資料の提示や、授業動画、課題提出を行っている。

・グループワークでは、Google Meetや、資料共有のためGoogle Driveを活用している。

・アンケートを使用する際は、Google Formを使用している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

「社会や自分の生活との関係をイメージできること」を心掛けている。教育では、社会事例を多く取り入れることで、学びが自分の生活や社会とつながっていることをイメージしやすくなる工夫をしている。そのため、最新の国内外の状況やトレンドを紹介しており、毎年、媒体をアップデートするよう努めている。

(2) 学生の理解度の把握

A

ほぼ毎回、小テストや課題を設けて、理解度の確認を行っている。また、中間テストを実施することで、理解度が乏しい学生を把握することが可能である。小テストの点数や課題内容が不良の学生には、個別にサポートすることで、理解度を上げるよう努めている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

学生の自学自習を促すために、学生が興味・関心を持ちやすい課題を設定するよう努めている。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

授業内での全体への声掛けが中心となっているが、授業開始前と終了後にしばらく教室に在室することで、学生が声をかけやすい環境作りをしている。質問への対応については、対面、メールを通して行っている。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義や実習ともに、発表の機会を1回以上設けている。その他、講義や実習において、学生に授業内容に関連する質問をして回答してもらい、教員からの一方通行にならない授業の工夫をしている。

5. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

小テストや課題提出状況を通じて、学生の学習意欲や理解度を把握し、これらに応じた対応ができるように意識している。個別に対応の必要がある学生は、授業後に課題をサポートするなど、細かな対応をしている。

この取り組みによって、出席不良者を除き、ほぼすべての学生が単位習得の合格点を達成できた。

成果が得られていると感じているので、現在の成績向上に資する取組を継続していきたいと考えている。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

「毎回の小テストが効果的だった」「課題が楽しかった」「説明が丁寧だった」といった、学生の授業評価が得られている。満足度の高いコメントが多く得られるようになってきていると感じる。

6. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

可能な限りFD研究会には参加するようにしている。

7. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

短期的な目標:

- ・わかりやすい、面白いと感じてもらえる授業を行うため、講義内容のブラッシュアップに努める
- ・個々の学生の理解度を把握し、柔軟に対応する
- ・教員と学生とのコミュニケーションを増やす。対話を増やすことで、学生の興味や発想力、潜在的な能力を発展させられるようアプローチする

長期的な目標:

講義科目に関連して、教員自らが知識を実践につなげる取り組みを増やすよう努めていきたい。

8. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

シラバス、小テスト、課題、教材、授業評価アンケート